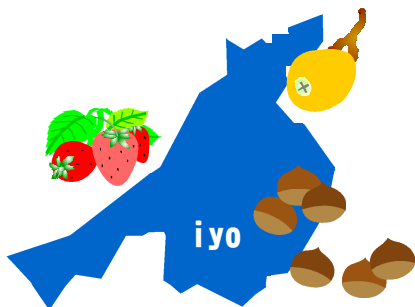




第二次総合計画

協働のまちづくりを実現する 市民討議会議 NEWS

発行：平成26年12月

伊予市未来づくり戦略室 [伊予市米湊820番地 089-982-1111]

協働のまちづくりを実現する市民討議会議を開催しました！

伊予市では現在、第2次総合計画の策定にあたり、市民の意見を取り入れるため、様々な市民参加の機会を設けています。今回の市民討議会議は無作為抽出で2,000名にご案内し、参加された35名の皆様に総合計画の未来戦略プロジェクトについて検討していただきました。

はじめに、これまで行ってきた市民参加の結果と、審議会で検討されてきた内容を整理した未来戦略について、事務局より説明しました(p2~)。また第3回市民ワークショップで提案された6つのプロジェクトの紹介も行いました。説明を聞いた後、グループごとに3つの未来戦略を実現するための協働プロジェクトを検討し、全体場で発表していただきました(p3~)。

昼食後、関心のあるテーマに分かれ、プロジェクトの内容についてグループで検討していただきました。結果を発表した後、総合計画に盛り込みたいプロジェクトを3つ選び、個人投票していただきました(p6~)。

別府大学の篠藤先生のお話を聞いた後(p12)、くじ引きでグループ分けをして、伊予市の将来像を表現するキャッチフレーズを考え、まとめていただきました。最後に全体場で発表していただきました(p14)、市民討議会議を終了しました。

今回の市民討議会議では、午前中に副市長さん、午後に市長さんに来て頂き、特に市長さんには討議にも加わって頂くことができました。加えて検討委員会の委員長さんには、偶然参加者となって頂けたこともあり、直接市民の方の生の声を身近にお伝えする良い機会になったと思います。

＜市民ワークショッププログラム＞

1：はじめに

第1ラウンド

- 2：伊予市第2次総合計画策定のために実施してきた市民参加の結果と、審議会で検討されてきた内容から整理した未来戦略について提案します
- 3：第3回市民ワークショップで提案された、6つの提案プロジェクトを紹介します
- 4：3つの未来戦略それぞれを実現するための協働プロジェクトのタイトルを3つ提案して下さい
- 5：グループの話し合いの結果を全体場で発表してもらいます

第2ラウンド

- 6：関心のあるプロジェクトタイトルを選択し、その内容を考えて下さい。
- 7：グループの話し合いの結果を全体場で発表してもらいます

第3ラウンド

- 8：伊予市の将来像を表現するキャッチフレーズを提案しよう！
- 9：グループの話し合いの結果を発表してもらいます
- 10：まとめとアンケート



シール投票

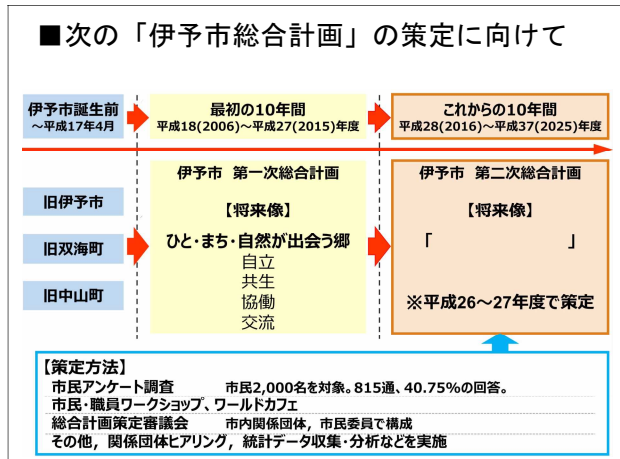


結果の発表

これまでの市民参加の結果と 未来戦略についての提案

伊予市第2次総合計画策定のために実施してきた市民参加の結果と、審議会で検討されてきた内容から整理した、未来戦略について事務局から提案しました。

第2次総合計画について



これまでの検討経過

市民アンケートの実施

- ・配布数：2,000通
- ・有効回収数：815通
- ・有効回収率：40.75%
- ・住みやすさや市での取り組みについて等の質問を実施。



審議会

- ・現在18回実施。
- ・第1次総合計画の検証や第2次総合計画の施策体系、将来像等について、検討を進めている。



ワークショップ

- ・ワールドカフェや市民・職員を対象にワークショップを実施。
- ・まちの将来像や今後、伊予市で取り組むべき施策（重点プロジェクト）等を検討。



未来戦略（重点プロジェクトについて）

まちの課題を3つの柱に整理し、それぞれ3つの重点プロジェクト、未来戦略にまとめました。

課題①

「経済環境の充実」

- 地域でお金を廻すしくみを検討し、雇用を創出するとともに若者を地域に呼び込むことが必要。
- 地元農家さんとのつながりを大切にして、学校の給食は全て地産地消で賄うなどの工夫が必要。
- TPPを受け入れた場合、グローバル経済に対応できる体制が必要。
- 地域に再投資できるような流れを生み出すことが必要。
- 地方が外貨を獲得するためのしくみや取り組みが必要。
- 地元の企業を中心に仕事ができるようにするしくみが必要。

課題②

「生活環境の向上」

- 子育て世帯が住みたいと感じ、子どもを産み育てやすい環境づくりが必要。
- 地域の見守り体制づくりなど、生活支援体制の構築が必要。
- まち全体の交通体系の見直しが必要。
- 中心市街地の活性化が必要。
- 良質な学びを実現する教育環境の整備が必要。
- 学校・家庭・地域が一体となった子供を育てる仕組みが必要。
- 歴史や文化、景観、文化財や伝統芸能の保存・継承・活用を進めていくことが必要。

課題③

「市民と住民意識の改革」

- 行政と市民が共に地域経営をしていくんだと捉えることが必要。
- 新たな住民リーダーを育成する機能（しくみ）をつくる必要がある。
- 移住者を受け入れられる途上やマインドが必要。
- まちおこしを住民みんなが楽しそうにすることで、外から人が来なくなるように仕掛けることが必要。（インバウンドやおもてなし）
- 事業ごとに、どういった経済効果があるか、数値として伝えていくことが必要。

将来像

【未来戦略1】

3万人を支える産業を育てます

【未来戦略2】

3万人が住み続けられる環境をつくります

【未来戦略3】

3万人の力を結集できる意識改革を行います

3つの未来戦略を実現するための 協働プロジェクトの提案

事務局から提案された3つの未来戦略を実現するための協働プロジェクトタイトルをグループで話し合い、提案していただきました。

1

3万人を支える産業を育てます

<2グループ>

「地産地消の材料を利用した 伊予市御膳プロジェクト」

（発表から）キウイやびわなども使ったら良い。福岡さんの自然農法は世界に名が轟いているので、それを使わない手はない。学校給食は食品添加物のないものにし、元気な子になってもらいたい。

<3グループ>

「小さな産業、大きな遺産を伝えよう！」

（発表から）2013年に和食が世界遺産に登録されたことから、伊予市の中で捨てられる物、例えば竹、ヨモギ、海藻などを開発することにより、今まで受け継いだものを伝えて行きたい。

<4グループ>

「地域マネジメント会社で 地域運営プロジェクト」

（発表から）地域の運営は、それぞれの産業特性や気候風土に応じて育てていく。それぞれの地域間で競争を行い、地域のプロジェクトを運営していきたいというイメージで採用した。

<5グループ>

「企業の起業、誘致」「土地の有効活用」 「農地の集約化、会社組織」 「農業への就労を図る」 「地域内の有名産物をブランド化」

（発表から）雇用を増やすため、起業及び誘致をしていきたい。農業への就労についてはまだ消極的な部分もあるので計画したい。伊予市の産物の認知度が低いのでブランド化、PR化を積極的にやり、経済効果につなげたい。

<6グループ>

「伊予市全体の大きなマネジメント会社 で運営プロジェクト」

（発表から）今後は、3万人を維持するという考えではなく、大きな目標を持つことが必要。また、伊予市全体で一つになって何かを成し遂げないことには、地域という小さな環境では成し遂げられないと思う。伊予市でこれから先、出来る可能性があるのは観光しかない。



<2グループ>

「立地を生かした宿泊施設を中心とする
テーマパークプロジェクト」

（発表から）立地を活かした宿泊施設を中心としたテーマパーク、簡易宿泊所、ミニ運動公園、ミニ水族館、展望タワー、観光農園、サイクリストの出発点、子ども向けの遊具など、土日以外でも遊べるような施設があれば良い。ハイウェイバスのようなものがあればより良いと思う。

<3グループ>

「海（ブルー）を独り占め」

（発表から）伊予市には山もあり海もあり、空には青空があり星空がある。ブルーというイメージがすごくわいたのでPRしていったらどうかという意見が出た。また、双海町にある自転車道の"ブルーレーン"を伊予市にも伸ばしたらどうか。

<4グループ>

「い～よ快適プロジェクト」

（発表から）伊予市には古い町並みもあるので、その良さをアピールしたい。また若者の出会いのプロジェクトを活用したり、イベントももっと開催していきたい。つい隣の松前や松山に足が向くが、もっと前面に良い所を打ち出したら、もっと快適な伊予市になるのではないかな。

<5グループ>

「交通が不便」「谷上さんのアスレチック
森林公園を充実させる。魅力あるものに。
滞在型の行楽地、サイクリングコース。
立ち止まってもらえるような。」

（発表から）単なる通過点ではなく、何か目的を持って来ていただけるような、魅力あるものを作っていけないか。もう少し総合的に、滞在型の行楽地やサイクリングコースを検討し、人を呼ぶことが出来ないか。

<6グループ>

「生まれて育てるまでの環境づくり
プロジェクト」

（発表から）生む人がいないといけなし、育てる環境としては、保育料が高すぎるので安くしていかないといけない。無料ならなお良い。



<1グループ>

「ぶらっと立ち寄れる
みんなの居場所づくり」

(内容)

- ・文化の交流、創造
- ・世代間のコミュニケーション、世代間のサポート
- ・「ぶらっ」と誰でもいつでも
- ・空き家を使う（人が引っ越すまで）。持ち主が市へ預ける。
- ・何をやっても良い（お茶、宿題）。

(人材)

- ・ボランティアで行う

（発表から）文化の交流や創造、世代間コミュニケーションやサポートができる、誰でも、いつでもそこに行けばそこで楽しめる場所やシステムがあると良いのではないかな。空き家は持ち主の問題もあっていろいろ難しいが、例えば元気なうちに承知して、亡くなった後の利用の承諾をもらうようなことも考えてはどうか。

<2グループ>

「お互いおせっかいし合う
子育て支援プロジェクト」

（発表から）いろんな世代の協力を得て、空き家を有効利用した子育て支援や、小中高校生や退職者の方、高齢者の方が楽しめるような場や時間を提供できるような整備を。続けるためのリーダーの育成とボランティアの育成も。周辺の外灯等の防犯対策も含めて、過ごしやすいまちづくりをお願いしたい。

<4グループ>

「伊予市再発見プロジェクト」

（発表から）地元の方は知っているが、地元以外の方は知らない事もあるし、逆に周りの方は良く分かっているけど、地元の良い所が分かっていないところが多い。伊予市の良い所、アピール出来る所を再発見するというような趣旨で提案した。

<3グループ>

「みなさん伊予へいらっしゃい!!
いーよーっ!!」

（発表から）地域を興すためにはたくさん人が集まらないといけない。移住者は、若い人を考えていると思うが、東京ではお年寄りが老後に住むところがない、移住するところがないという話を聞いたので、伊予市に若い人だけでなくお年寄りの方も来て、自然あふれたところで楽しんで暮らしてもらいたい。

<6グループ>

「地産地消で健康になろうプロジェクト」

（発表から）伊予市には栗やキウイフルーツ、魚、野菜と美味しい物がたくさんあるので、給食や買い求め易い場所を作り、地域の人にいっぱい食べてもらって、旬なものを食べることによって健康になるという意識を付けていけるようにしたい。

<5グループ>

「市内の空き家 高齢者のコミュニティの場」

（発表から）市内にある空き家をうまく有効活用、利用したい。伊予市に住みたい方もいるので、そういうものに活用し、高齢者の方のコミュニティの場所も作っていきたい。



関心のあるテーマに分かれ、 プロジェクトの内容を検討しました

午前中に提案されたプロジェクトタイトルから一つを選択し、その内容についてグループで話し合っ
てプロジェクトシートをまとめていただきました。発表の聞いた後、総合計画に盛り込み
たいプロジェクトを選び、個人でシール投票（1人3票）しました。【★の中は得票数】

22票

【1グループ】 海と山のまち「伊予王国」を創り上げよう

＜現在の状態＞

（産業面）

- 葉草
- 紅マドンナ
- キウイNo.1が知られていない
- かつおぶし→全国30～40% 認知不足
- 下灘のハモ→京都ハモ 伊予ハモだ！

（不満・不安）

- 水道代、税金が高い
- 高齢化

★宣伝がいまひとつ
★経済的に助かる、
大きな産業がない

＜目指す姿＞

- 竹林が増加中…有効活用
- 人があつまる施設づくり…遊技場、
キャンプ場、サバイバル系、合宿所

そのためには

- ブランド推進のアピールを
上手にする
- 農業者！ターン受け入れ

その結果

★雇用創出
★経済的に豊かな市

○企業と伊予市の一体化

＜具体的な取り組み＞

- 伊予農生とのプロジェクト
- ゆるきゃらをもっと活用!!
- 上灘や下灘へホテルや合宿所。廃校？の小学校を使う！
- 伊予ⅠC付近に温泉、ホテル、高齢者施設、遊戯設備
- 海の近くに世界一美しい夕日の見える温泉を作る。宿泊しにくい、ない。
- 高齢労働者のワザ、知恵を記録に残す。
- 竹→バイオ
- 「伊予」となんでも付ける。
- ラストに「い～よ」。伊予市／伊予國

あるものは何でも
利用しよう

山と瀬戸内海の美しさ
を活かすには、世界一美しい温泉をつく
るのが良い。温泉は出なくても浴場は
つくれる。

＜行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者＞

- 伊予市内の事業者はもちろん、広く市民に至るまで出資者を募る。
- PR→受付窓口の増加。体験型グリーンツーリズム
- 大学生とのコラボ

みんなが夢を
持って心をつにして
素晴らしい伊予市に
するために、ホテルを
造ればいいと思う。

＜行政に支援して欲しいこと＞

- 官民一体で民宿、旅館、ホテルを増やす。
行政、企業、一般人の協働出資。



【2グループ】 小さな産業・大きな遺産を伝えよう

＜現在の状態＞

- 宿泊施設が足りない
- 人の交流が少ない
- 知名度が低い
- お祭りはある
- 農家の後継者
- 企業…ヤマキ、まるとも、おかべ、三洋はぶらし
- 種類が多すぎてブランド化できない
- お中元、お歳暮にする伊予市の名産がない
- くり、びわ、里芋、かつお、めんつゆ、自然薯、はも
- PR不足（伊予市外への）○ふるさと納税の出遅れ。商品の充実。
- 地域おこし協力隊の活躍？

いろんな特産品は
あると知名度が低い。その辺りのPRが不足している。

＜目指す姿＞

- 特化した農法。福岡さん。
- 関心のある若者を呼ぶ。
- ブランド化
- 安心、安全な食品を子どもに
- 有機農法のまちになる。

特化した農法も一つ
の強みになるのではないか。
現状、人が求めている安心、安全な食品
をブランド化していきたい。

＜具体的な取り組み＞

- 福岡さんのネームバリューを活かす
- 家、田んぼのシステム（受け渡し）。双海町から移住の人達の受け入れを。
- PR（市の）
- 名刺に伊予市のことを入れる。
- 特産品の開発（くり）。お土産、おいしい。
- 簡易な宿泊施設。景色のいい場所、夜景、ブルーな海。
- 観光産業を活かす。

＜行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者＞

- 企業
- 伊予農の子とのコラボ

伊予農業高校の生徒とコ
ラボ的なことが出来ないか。せっかくそう
いう高校があるので、うまくつないでい
ければと思う。

＜行政に支援して欲しいこと＞

- PR
- 道の駅の整備
- 宿泊施設
- 誘致活動



今、道の駅を目的に
来て、観光して帰るような状況
があるので、それをうまく利用
できれば良いと思う。

【3グループ】 い〜よ快適環境プロジェクト

- ◇人生の終わりまで快適にすごせる為に！毎日楽しく過ごせるには
- ◇幸せな一生を送る為のプロジェクト
- ◇自然と健康を守る

<現在の状態>

- 老人にとって近くにお店がない。
- 高齢化すると医療とマーケットが近くにある所が望ましい。生活するのに便利な所。
- 伊予市で生まれた人が伊予市で生活できる環境作り。仕事、子育て、交通。
- 収入を安定させる為に市外へ通勤する人が多い。市内に大きな企業が少ない。
- 介護施設の不足。
- 交通の便が悪い。
- 歩きやすい道。
- 食生活の指導がない。
- 地域によって格差がある。
- 環境の良い所。風景、海が汚れていない。夕日や朝日が美しく見える所。
虫や鳥が居る風景。



住んでいる地域
によって格差がある。

<目指す姿>

- ☆健康で楽しい老後
- コンパクトな町。高齢になっても住み続けられる町。
- 交通の便を良くする。
- 老後を楽しく生きるために、健康が一番、お金、友達、地域。
- 空き家をどう利用する？
- 趣味を持つ。サークルに参加。

<具体的な取り組み>

- 情報発信…空き家情報発信
- 定期便を出す…伊予市の駅からスクールバス
- 健康のための食生活指導
- 趣味やサークルに積極的に参加する。ボランティア活動にも参加する。
- 健康で長生きする目標を持つ。

<行政に支援して欲しいこと>

- 福祉センターから出ているバスを中山、双海へもまわしてほしい。

コンパクトな町、交通の便
が良い街、健康のための食生活の
指導など、健康で楽しい老後が
過ごせる町にしたい。



【4グループ】 生まれて育てる環境づくりプロジェクト

＜現在の状態＞

- 水が無いから大きな企業が来ない。
- 若い人が正職員になれる職業が少ない。
- 収入が少ない。
- 出会いの場が少ない。
- 若い人が住みたいと思う魅力がない。
- 保育所の希望の所に入れない（郡中なのに北山へ、鳥ノ木から北山へと言われた）。
- 母子家庭が多い。
- 意識改革
- 保育料が高い。
- 年寄りが多い。病院に行く人が多い。

現在は若い人より年寄りが多くて、病院に行く人が多くて、経済的にも市も大変ではないか。

＜目指す姿＞

- 出会いが生まれる。
- 子育てしやすい伊予市にする。
- 元気な年寄りを作る。健康寿命を延ばす。

出会える場をつくり、子育てのしやすい環境を作ることが必要では。

＜具体的な取り組み＞

- 若い人が働ける場を作る。
- 子どもを産んで働けるよう、保育料を安くする。
- 子どもを3人以上産んだら、3人目から教育費を援助する。
- 行政が補助を出して、空き屋を安く借りられるようにする。
- いっぴく亭、シルバー人材センター、ボランティア活動。
- 積極的でない人を引っ張り出す。一人が一人を連れてくる。
- 声かけ

＜行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者＞

- 商工会議所の青年部など、若い人に積極的に関わって欲しい。

＜行政に支援して欲しいこと＞

- 行政が補助を出して空き屋を安く提供する。
- 遠い保育所へ通わせる時、近くの保育所へ連れて行く
→通園バスで空いている保育所へ連れて行く。
- 子どもを3人以上生んだら、3人目から保育費、教育費を補助する。



どんな課題に対しても、一人一人の意識改革と、声かけが重要になってくるのでは。一人が一人を連れてくるような、声かけに取り組んだら良いと思う。

【5グループ】 みなさん伊予へいらっしやい

＜現在の状態＞

- 地域ごとの取り組みが知られていない。
- 地区のコミュニケーションが弱い。
- PRが足りない。
- いくつかのイベントがあるが市全体で盛り上がらない。
- 伊予市の良い所が知られていない。
- 地域のリーダーが育っているか。

それぞれの地域では連帯感が醸成されつつあると思うが、伊予市全体を見た時に連帯感があるかどうかは疑問だという意見も出ていた。

＜目指す姿＞

- それぞれの地域の良い所を活性化。競争意識を強める。
- 伊予市全体でのイベントを!!
- 伊予市の連帯感も強める。
- リーダーの育成とネットワーク

地域のリーダーが育っているところでは、毎月イベントごとをやっている、「あの地域はいいですね」と言われている地域もある。

＜具体的な取り組み＞

- 農産物のイベントの良い所
- 子どもも高齢者も仲の良い所
- 子育てでうまくいっている事例

↓

- 今の地域の良い所を再発見して知る。
- 市内や市外に発信する。
- 連帯感を強めて、連帯感が良いことをアピール

↓

- 地域の良い所（イベントなど）を強める。
- 同じ市民同士、関心を持ってもらう。
- 交流を持つ。
- 空き家を活用して外の人を受け入れる。
- おもてなしの考えを広める。

外から見ると、それぞれの地域が特色を持った中で連帯感のある非常に面白い町であるねという対外発信が出来れば、人々が集まってくる町になるのではないかな。

＜行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者＞

- 地域のネットワークをサポートしてくれる方
- NPOや地元の企業の立ち上げ方を教えてくれる方

＜行政に支援して欲しいこと＞

- 地域間の橋渡し役をしてほしい。

それぞれの地域の特性を活かした地域を集めて、良さを皆さんが真似をしていって、それが全体に広がり伊予市全体が良くなるという姿が良いのではないかな。



【6グループ】 いーよ！みなさん伊予市へいらっしゃい！！

＜現在の状態＞

- 伊予市には季節ごとにおいしい食べ物があるけど知られていない、食べられていない。
- 販路が限られ、ネーミングが弱い（唐川ビワ、イチゴ、中山栗、キウイ…）。行政が関与していない。
- 10代が暴力を振るい人を殺した。コミュニティネットワークが不十分。人の育ち
- 地域の問題について関心が希薄化して、見て見ぬ風潮になっている。関係する行政官で情報が生かされていない。
- 荒れ地が多く、遊園地がない（小規模の公園等）。
- 子どもの遊び場、友達間の交友の場が少ない。
- 伊予市の魅力を県内外に発信できていないことが問題！

＜目指す姿＞

- 産直市の拡大（朝市、昼市、夜市）。例、高知の朝市、能登の朝市。果物、野菜、魚。
- いつでも誰でも困った時に相談できるような、かけこみ的な施設があればいいな。
- 世代間のコミュニケーションのサポート
- 楽しい人がたくさんいて、楽しいイベントがあり、みんながワクワクドキドキ生活している、世代間交流できる居場所がすぐそこにある。
- ふらっと立ち寄れる、みんなの居場所をつくる。

＜具体的な取り組み＞

- 地産地消の拡充。学校給食への導入。
- 野菜等の無農薬栽培の奨励（伊予市の野菜は安心！おいしいよ）。
- おいしい季節の食べ物を知ってもらえるようにアピールする。→おいしいものいっぱいという意識に。
- 市の力を借り、空き家を利用し、NPOの力を借り、ボランティアで居場所をつくり、お茶を飲んだり話をしたり、何かをつくったり。世代を越えて楽しむ。助け合う関係をつくる。行きたい時にいつでも行ける。
- 空き家などを利用し、ボランティアを配置し、お茶など気軽に飲める場を提供し、おしゃべりサロンのような場を設ける。その場で世代間コミュニケーションを取ったり、知恵を貸したり貸してもらったりして、楽しい時間を過ごせるようにしてほしい。
- 目指す姿の内容ごとにグループを作り、進むべき方向を話し合い、実践活動に移る。
- 行政と住民が一体となって問題を解決する。

＜行政以外でプロジェクトに関わって欲しい協力者＞

- 大学生（社会問題に関心のある人達）
- 退職後の世話好きな人達
- 専門的知識を持った人のサポート



相談できる、専門知識を持った人がサポートできるような仕組みが必要ではないか。

＜行政に支援して欲しいこと＞

- 必要な補助金
- 人材の確保（紹介）
- 県内外に対する広報、宣伝
- マスコミの利用
- イベントの開催

伊予市の素晴らしい、良いところを情報発信して、それを認知してもらわないと、どうにもならない。



伊予市の将来像を表現する キャッチフレーズを提案しました

はじめに、別府大学の篠藤先生から、伊予市の将来像を考える際のヒントをお話していただきました。その後、各自で『こんな伊予市にしていきたい』というキャッチフレーズを考えた後、グループごとに伊予市の将来像を表すキャッチフレーズをまとめていただきました。

篠藤先生のお話

■日本に未来はないと言われている

明治維新から終戦までは77年。その間、日清、日露、恐慌、第一次世界大戦、第二次世界大戦があった。今年は戦争が終わって70年だが、我々戦後生まれの人間からすると、世の中が大きく変わる実感が無い。しかし今日データでは2040年、東京に一極集中してブラックホールのように全部を飲み込んでクラッシュする、未来はないと言われている。

■今は天下分け目の大戦争

天下分け目の大戦争、大分水嶺だというのが客観的事実が示していることであり、この10年間の計画によって命運が決まるものだと思う。

■総合計画は市民計画

総合計画は通常、行政計画と言われ、役所がこれから10年間どうするか、そのために市民の意見や要望を聞きましようと言うことだった。ところが市民の要望を聞いて行政が10年間の計画する時代はもう終わり。市民が総力を上げて、みんなでつくる計画である。だからこの総合計画は市民計画と名付けられるし、これからは市民にも覚悟が必要である。



私がドイツにいた16年間にドイツは東西統一、通貨がユーロに変わる、ソ連の崩壊など、様々なことが起きた。日本も激動の時代に突入していると言える。

個人で考えたキャッチフレーズ

○伊予市でよかったよね

→老若男女、老人も安心して住める

○高齢になっても自立持続のコンパクトな町

→押し車 押して歩いて 用が足せる町

○アツあった！いやし（癒やし）の伊予市

→伊予市に良いものみつけた。「いやし」海、山で遊ぶ。

○いつまでも 生きがいもてる 伊予のまち

→いくつになっても生きがいを持って暮らせるのがいいな！

○快適な 住みやすさ 伊予市

→老人にとっても子育てにとっても快適に過ごせるのを目指して。

○老人も 安心して住める 伊予市

○育てよう！子どもと産業 交流のまち

→子どもや産業が栄えるところは活気があります。人々が支え合えば幸せが生まれます。

○海が好き 山が好き 人も好き そんな伊予市が大好き!!

→伊予市の自然を大切に、人と人のつながりを大切にしたい、住み良い場所にしたいです。

○安心して 育て働け住める「まちとむら」伊予市

→「まちとむら」海、山、街がある共同体。

○住民自治による特色有る地球づくりが伊予市の未来を拓く

○大切な人が居る郷（くに） いやしの伊予市

→家族、仲間、連帯感、安心して住める、心の絆

○人と地域がふれあえる町（伊予市）

→伊予市を盛り上げるには、まず商店街が元気である事。またイベントなどで地域とふれあえる場所

○「どうしたの?」「大丈夫?」ホッとする「いーよ」伊予市へみんなおいで

○老いも若きも愛(え)顔(が)のいよし

→一日のえがおは1日の長寿をもたらす(笑顔)。一日の苦痛な顔は1日の短命につながるとか。えがおでもって一生過ごすことが如何に素晴らしいことであろうか！

○自然豊かな住みやすい伊予市

○10年後生きていて幸せと言える伊予市でありたいな

→10年と言わず、100年たっても誰もが生きるのが楽しくなる、自然豊かな町（市）であって欲しい。

○笑顔であいさつ優しい言葉。人とのつながりが町づくりの一步となればいい。

→まずはあいさつ。知らない人でも声をかけあえるから。声をかけ合うことから人と人のつながりができればいいと思う。

○人生に余生はないぞ 老若男女みな立ち上がれ!!

→人生に余った生命（人生）はない。目を閉じるまで!!老若男女、元気に社会参加をして、お互いに感謝の生活が出来る伊予市を創造したい。

○いまから創ろう伊予の道

→市民評議会で出た内容から、人、ものに対するいろいろな取り組みをやっていこうとする趣旨。

○人、海、山、まち、コラボして楽しく生活するいよし

→兎に角、人口増え、維持するために楽しくなるため（するため）に。これで増加するかも？

○子ども居て はしゃぐ声聞き 住むいよし

→人口増加のためには、子どもがいなくては増加しないと思う。まずは子どもであり、子どもは未来の宝である。そしてそのはしゃぐ声を聞き、明るい伊予市であってほしい。

○さあ立ち上がろう 輝く伊予市の未来の為に

→孫達が楽しく暮らせる伊予市にする為に、今、私たちが頑張る時。

○伊予の郷 山海青し 旬の味

→伊予市は山、海の珍味が多く、夕日に映える瀬戸内の眺望は絶景です。古来から農漁村一次産業で支えられていますが、そのため自然も破壊されず、後世に残せ得る財産です。人情味豊かな街であり、生涯のいやし里です。

○人の集まるいよし。海と山がコラボレーションする町 伊予市

→まちとむらが手を取り合っているいよし

○人口減 ピンチをチャンスに!!伊予市再興

→のんびりした風土の人々に危機感をもってもらう。現状はピンチだが、ピンチこそチャンスである。再興（最高）の街にしていきたい。

○子や孫に引き継いでいきたい伊予市

→我々は都市をとっているのだから、若い人に引き継いでもらいたい。

○自然と調和した心豊かなふれ合いのまち いよし

→伊予市は美しい海、山、街があり、食べ物は海、山の幸に恵まれ、気候も温暖で住むには老後まで幸せに暮らせるまちですよ。

○人よし味よし自然よし 市民と変わる伊予はよいとこ

→優しく楽しい人々、おいしい食べ物、きれいな山と海に囲まれた住みやすい町。市民が地域の問題点に気付き、考え、市とともに変わっていき、よりよい市に、生活になるようにと考えました。

○い～よし連邦共和国!!

→移住して来てくれる人達の受け入れPR（現在、双海町…）。人とひととのおせっかい（保育所不足、リーダーの育成を）。元保育士さんを活用して。意外と美味しい物がたくさんあったんだ（お中元、お歳暮を作って）。季節を楽しむ食事（料理教室を開催しているPR）。下灘の夕日、海を独り占め（カップルシートがあるけれど…）。以上、意外と欲張りな伊予市でした。

○伊予市とは、海山に恵まれ未来を託せる「人」を育てる街

→伊予市の名前が知られていないということで、「伊予市」を入れました。リーダー的な人物が育ち、人とのつながりで伊予市を引っ張っていくという思いがあります。継続させるには人を育てる大切さを感じております。

○希望や夢を持ち続け、人と人々が助け合う明るい故郷 我が伊予市

→どんな困難な状況になっても、伊予市に住んでいる人全員がそれぞれの夢や希望を失わず、人と人々が助け合って明るい伊予市を作り続けていくことが大切だと思い、作りました。

○恵まれた伊予の自然は子を育て、人と人とのつながりを密にする。

→おいしい魚や果物などと、災害も少ない伊予は子育てに適していますし、いい人間関係が出来ていくと思います。

○伊予王国 食の遺産と故郷愛

→伊予市には栄養学を初めて創立した、さいきただす（佐伯矩）さんという人がいるすごい伊予市です。食の伝統には素晴らしいものがあります。故郷を愛する気持ちが強ければ、伊予王国になるのではないのでしょうか。※東京にはさいきただす会館があります。

<1グループ>



伊予王国 食の遺産！と故郷愛

伊予市に佐伯矩さんという、日本で初めて栄養学という言葉と流れを作った方がおられるし、伊予市の食材は遺産、資産だと思って食の遺産とした。また地元を愛すれば愛するほど伊予市を大きくしていけると思い、故郷愛とした。

<2グループ>



**快適で老人も
安心して住める伊予市**

現状、若い人にとっても老人にとっても快適とはまだ言えないので、10年後にはみんなが快適に過ごせる伊予市ということで、こういうキャッチフレーズにした。

<3グループ>



**子ども居て はしゃぐ声聞き
住む伊予市**

双海町には中学生2人の他、子どもがいないが、夏休みなどに孫がやってきて、その声が耳に入ると非常に気持ちがいい。子どもがどこにでもいなければならない、子どもが未来の人口増につながるという思いで考えた。

<4グループ>



いまから創ろう伊予の道

これから10年間、行政も含め高齢化になってくる。だから老若男女、お年寄りだからどうのではなく、みんなで参加して伊予市を創っていこうと、10年後に幸せな伊予市であればいいかなというような意味合いで作った。

<5グループ>



**人よし味よし自然よし
市民と変わる伊予はよいとこ**

伊予市の良い所を前面に押し出した。人もいい人ばかりで美味しいものがあり、眺めがきれいという良い伊予市で、その伊予市の問題に市民が気付いて問題を考えて、変えていこうという思いを込めた。

<6グループ>



**わし（私）らが拓こう
地域の未来**

「わしがやらねば誰がやる」というのは平櫛田中さんの言葉である。とにかく市民自分らが伊予市の将来、未来を拓いていこうと、一人一人が当事者意識を持たなければ伊予市の未来、地域の未来はない。